

## 平成 29 年度新宿区外部評価委員会第 2 部会 第 11 回会議概要

### <開催日>

平成 29 年 11 月 15 日（水）

### <場所>

本庁舎 6 階 第 4 委員会室

### <出席者>

外部評価委員（5 名）

山本部長、小林委員、鶴巻委員、藤岡委員、鱒沢委員

事務局（4 名）

行政管理課長、池田主査、杉山主任、原田主任

説明者（7 名）

健康政策課長、健康づくり課長、保健予防課長、四谷保健センター所長、教育指導課長、地域医療・歯科保健担当副参事、健康長寿担当副参事

### 【部会長】

ただ今から、第11回新宿区外部評価委員会第2部会を開催します。

本日は、行政評価の手法等の検証として、外部評価の試行を実施します。お手元の次第のとおり、ヒアリングと評価の取りまとめを行います。所管課とのヒアリングを1時間程度行った後、第2部会としての評価の取りまとめを1時間30分程度行う予定です。

では、次第1「ヒアリングの実施」です。「個別施策Ⅰ-1 生涯にわたり心身共に健康で暮らせる健康寿命の延伸に向けた取組みの充実」について、ヒアリングを行います。

<ヒアリングの実施（説明及び質疑）>

### 【部会長】

ヒアリングは以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

<説明者 退室>

### 【部会長】

続いて、次第2「評価の取りまとめ」に入ります。

評価の取りまとめは、はじめに、各自で個人としての評価を取りまとめていただきます。その後、各委員の評価を基に、部会としての評価の取りまとめを行います。

<評価の取りまとめ>

### 【部会長】

評価の取りまとめ、お疲れさまでした。

では、各委員から実際に試行してみたの感想等を伺いたいと思います。

**【委員】**

施策全体として「目標どおり」と評価することは理解できますし、経常事業についてもしっかりと取り組んでいるということもよく分かります。けれど、やはり評価をするに当たっての判断材料があまりにも少な過ぎたということを強く感じています。

特に経常事業については、評価するに当たって目標設定もなく、恐らくずっと同じように継続してきたのではないかという事業や事業目的が見えてこない事業が非常に多くあり、どのように評価すればよいのか戸惑いました。適切に評価できないのでは、外部評価として役割を果たせないのではないかと思います。

**【部会長】**

今ご指摘された経常事業については、評価シートのあり方や記載内容の工夫などが考えられますが、ヒアリングの場できちんと聞いていくべきということでしょうか。

**【委員】**

ヒアリングにおいて経常事業を全て説明してくださいということは難しいと思いますので、やはり、ある程度評価シートの段階で情報をもっといただければと思います。事業概要は分かるのですが、このような取組が効果的であるということやどのような課題があるということなど、一つひとつ丁寧に書いていただかないと分からないと思うことが多々ありました。

**【委員】**

試行をしてみて強く感じたことは、経常事業取組状況シートの内容があまりに簡潔で情報が少な過ぎるということです。実績を数字だけで記載している事業がありますが、もう一言説明などがあっても良いのではないかと思います。計画事業評価シートと経常事業取組状況シートを見比べたときに特に気になりましたので記載方法に工夫が必要ではないかと思います。

まとめ方や記載方法でいうと、やはり各担当部署の書き方がばらばらであるということも気になります。例えば、行数を揃える、上段に詰めるということを一統する、そのようなことでも見やすさが変わってくると思いますので、そのような点についても整理していただければと思います。

**【委員】**

今後、新しい手法をどのような形で実施していくべきかということに着目すべきではないかと考えています。新しい手法でやるということについては、現在の外部評価委員が事業内容を理解している部分が大きいということを前提としても、今回の試行の評価シートの書き方は分かりやすいのではないかと思います。

しかし、本日、ヒアリングを実施してみて、やはり膨大な事業が個別施策の中に入っているということが大きな課題ではないかと思います。今回は時間的な制約があるにせよ、関係する事業についてはもう少し丁寧な説明が必要だったのではないのでしょうか。特に、経常事業についてはほとんど触れられなかったことが残念だったなと感じています。

今後、施策評価を実施していくに当たり、外部評価委員が内部評価シートどう読み取り、ヒ

アリングで所管課がどう説明して、それらを踏まえてどのように評価できるかを考えていかななくてはなりません。委員が改選して新しいメンバーで施策評価を実施したときに、計画事業の理解から取り組んでいく必要があると思いますので、今回の試行のような方法では厳しいのではないかという印象を持ちました。

**【部会長】**

ありがとうございます。  
ほかにいかがでしょうか。

**【委員】**

2点あります。

1点目は、施策評価として、全体から事業の位置付けを含めて評価するというのは非常に良かったということです。とてもクリアでしたし、試行としては非常に良い取組だと思いました。

2点目は、ヒアリングの方法や事前のレクチャーの方法などを変えていかないと、全体像から見た評価というのはなかなか難しいということです。施策評価自体は、とても良い取組だと思いますが、これまでは個別の計画事業を評価してきた中で丁寧に指摘や意見を区に届けられていたという部分が、流れていってしまうともったいないのではないかと思います。

**【部会長】**

ありがとうございます。

**【委員】**

経常事業取組状況シートについては、非常にコンパクトによくまとめられているという印象ですが、やはりもう少し区民の立場に立った分かりやすい書き方があってしかるべきではないかと思います。特に、実績の数字のみしか記載されていない事業は、例えば、事業に関わっていないスタッフやボランティアなどについてもできる範囲で記載していただければと思います。そのような点について、経常事業の書き方で足りない部分が見受けられましたので、改善する余地があるのではないかと思います。計画事業評価シートについては、これまでも同じような様式で評価してきたので理解が及ぶところではありますが、評価シートを読み込むことはなかなか至難の業ではないのかなと感じます。

自分が実際に関わっている事業や見てきた事業であれば、より細かい内容まで言及できるのですが、事業の全体像を理解しているという状況ではないとすれば、ある程度知識や経験がある方ではないと評価することが難しいのではないかと感じます。

**【部会長】**

ありがとうございます。

委員の皆様が強調されている点は、次期外部評価委員会において、委員の多くが入れ替わった場合、これまでの外部評価委員会としての経験が一度そこでリセットされるので、本当に外部評価を行えるのだろうかということだと思います。特に、施策評価に当たって事業数が増えたときに、その懸念は大きくなるのではないかと感じているということが共通していることの一つかと思います。

また、経常事業取組状況シートについての記載が、評価するための材料としては不足している部分が多いというご指摘も共通しています。

今回、試行してみて皆さんが感じた点は、もちろん私も同様に思うところがあります。

評価シートを考えたときに、施策評価シートの分析の視点の評価は、施策を構成している事業の範囲がかなりの量になるので、平均的に見れば、全体的におおむね良好とする評価になるのではないかと思います。ほかの部会からまた違う意見があるかもしれませんが、この点については、私としても、情報の提示の仕方として、本当にこれが最良なのかなと少し疑問に思うところがあります。

それから、圧倒的に時間が少ないということは、やはり思いました。

ほかにいかがでしょうか。

#### 【委員】

試行で使用した外部評価チェックシートでは、やはり評価を書き切れないと思います。外部評価委員会はこれまで、計画事業ごとに細かく評価をしてきました。それは、施策評価に当たってもいかすべきではないかと感じます。全体を通して見る目ということももちろん大事ですが、計画事業ごとの評価をいかしつつ、全体像が分かるようなチェックシートを作っても良いのではないかと思います。

外部評価委員としての作業量が増えるという問題は確かに出てくるとは思いますが、個別施策の中に複数の計画事業があるのに、それを全て包括的に評価し、外部評価チェックシートの「総合評価」欄に全て書き込んでいくということは、無理があるのではないかと思います。全体として評価することに加えて、各計画事業についても評価していくことが大事なのではないかと思いました。

#### 【部会長】

これまでの外部評価の良いところを積極的に引き継ぐということは重要な点だと思います。今回の試行のやり方では、そこが少し弱くなり、これまでの計画事業単位の評価における濃密なやり取りが希薄になる気がしますね。

ほかにご意見いかがでしょうか。

#### 【委員】

今出ているご意見のとおりだと思います。

#### 【部会長】

では、本日はここで終了します。

委員の皆様、お疲れさまでした。ありがとうございました。

<閉会>